

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2024年12月

結果公表日: 2025年3月27日

回答率

事業所職員: 6名回答、回答率 100%

保護者様: 26名回答、回答率 93%

職員の意見

○環境・体制整備

法令上の基準はクリアし、安全管理には十分に配慮しているが、障害特性や程度を考えると、個別の対応をより充実させるためにもう少し人員がいると良いと感じる。よりよい環境を作るため工夫を行い引き続き構造化に取り組んでいく。

○業務改善

教室全体では、ミーティングの充実や、集団活動・専門的支援、個別課題の検討などが昨年度より力を入れることができた。業務も昨年に比べると効率よく取り組むことができた。今後も引き続き改善に努めるとともに、職員が個々に業務効率の意識を高められるように力を入れていく。

○適切な支援の提供

研修実施・活動プログラム作成・個別支援の意識向上などは力を入れて取り組み、報酬改定に対応して5領域の目標を意識した支援をすることが出来ている。業務前ミーティングの他にも集団療育についてのミーティングを実施した。業務後の振り返りのミーティングにさらに力を入れたい。地域との交流については、近隣店舗への課外活動は行えたが、地域の児童館や他の子どもとの交流にはいたらず、課題が残った。

○関係機関や保護者との連携

日頃から送迎時など直接児童の状況を伝え合い、問題の共有・検討やアドバイスができていく。葛飾区の放デイ連絡会にも定期的に参加し、連携が取れている。学校や他事業所等との連携については不十分な面があるため、保護者の意向も踏まえて充実させていきたい。

○保護者への説明責任等

契約前後に丁寧な説明をするほか、変更時や質問があればその都度説明に努めている。保護者会はオンラインも利用して開催できた。今度実施回数を増やしたり他の方法も検討していきたい。情報の周知方法についても、検討していきたい。

○非常時等の対応

緊急時の対応についてマニュアルはあるが、保護者への周知に課題が残る。教室職員内での訓練・情報共有や方針の共有はできている。より実践的な訓練・準備を実施できるようにしたい。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているかの問いに対して、80%の方に「はい」とお答えいただいた。「個別学習に適した構造化を取り入れてほしい」という意見もいただいた。職員の配置は適切かの問いに対しては、76%の方に「はい」とお答えいただいた。

○適切な支援の提供

専門性のある支援・個別支援計画については9割の方に、活動プログラムについては、88%の方に満足いただけている結果であった。「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」については、「どちらともいえない・分からない」との回答が22%だった。今後制度についてより分かりやすく説明し、必要や要望に応じて実施ができるようにしていきたい。「放課後クラブ等との交流」については「希望しない」という意見もいただいた。

○保護者への説明等

支援内容・利用者負担の説明、児童の状況・課題の共有、面談や助言等の支援について、9割以上の方に良い評価をいただいた。保護者の交流について、45%の方が「どちらともいえない・分からない・未回答」との回答だったが、保護者会に参加された方からは「保護者会ではリアルとオンラインのハイブリッド形式で開催され、助かった」との回答をいただいた。今後、更に保護者の方の交流の機会を増やしていきたい。

○非常時等の対応

非常時等マニュアルの周知・訓練について、8割の方に適切に対応しているとの評価をいただいた。今後も安心して通っていただけるよう、保護者の方に分かりやすく訓練内容をお知らせしていきたい。

○満足度

92%の方に「安心感をもって通所している」「通所を楽しみにしている」「支援に満足している」とお答えいただいた。「成長を感じることができている」「第2の家として通えている」等の回答をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・虐待防止関連の研修への参加状況、苦情への対応策、その他変更点の情報など、教室の取り組みを知ってもらうために、ニュースレターを活用して周知していく。
- ・保護者会を定期的に開催し、対応についての透明性を担保するとともに、保護者同士の情報共有ができるようにする。
- ・避難場所の小学校までの避難や、消火器等の使用方法を確認するなどより実践的な避難訓練を検討し、職員の対応スキルの向上に務める。
 - ・災害時対応についてブログで避難訓練の様子を掲載したり、お便りにまとめて配布する等利用者に分かりやすい形で共有、周知を行っていく。
- ・個別課題の検討に引き続き取り組み、支援力の向上を図る。
 - ・保護者のニーズを確認しながら、近隣の公共施設を活用した課外活動を取り入れ、地域とのかかわりを持つ機会を増やしていく。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・小スペースではあるがニュースレターを活用し、虐待防止関連の研修への職員の参加状況などを周知することができた。今後、他の周知方法も検討していく。
- ・保護者会1回・茶話会1回を対面とオンラインの選択式で開催した。今後も保護者同士の情報共有ができるよう、工夫・検討をしていく。
- ・避難訓練では、様々な状況を想定し、教室の外まで逃げる訓練が実施できた。避難場所の小学校まで行く避難訓練は出来なかったが、利用児童と経路の確認は出来た。引き続き実践的な訓練について検討する。
- ・災害時対応について、避難訓練で使用した資料の配布などができた。より細かい具体的な内容を利用者に分かりやすい形で共有できるようにする。
- ・個別課題の道具の作成や児童に合った課題の検討に力を入れて取り組んだ。より児童も職員も継続しやすい方法を検討し続けていく。
- ・近隣の飲食店等への課外活動を行い、保護者の方からも好評だった。どのような活動ができるか検討を続けていく。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・「放課後等デイサービス計画」が適切に作成されており、利用時に提供する支援内容の説明が事前に丁寧に行うことができている。
- ・送迎時等の保護者とのやりとりを密にすることで、保護者と職員間で児童に対する共通理解が図れており、専門性のある支援が行えている。
- ・ミーティングで児童に対する情報の共有や療育活動の準備が出来ており、個別課題の作成や対応にも力を入れている。
- ・様々な特性のある児童が在籍し交流することで良い刺激となっている。

○改善点

- ・保護者のニーズに合わせて地域施設の利用などを検討する。
- ・保護者同士の連携を図る機会が少ないため、保護者会やそれ以外の場を設けることを検討する。
- ・非常時対応についての保護者への周知が不十分のため、利用者にわかりやすい形で周知を進める。
- ・送迎を行っていない学校との情報共有が不足している。情報共有を行う機会を積極的に作り、連携していきたい。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・壁紙や床・窓の改修等、基本的な環境整備に努め、整備の状況や教室での児童の様子を保護者に共有する。
- ・児童が主体的に活動できるように、構造化を進め、それぞれの児童の特性に配慮できるように検討していく。
- ・利用者が安心して利用できるよう、積極的な情報開示の場や機会を設けて、透明性の高い事業所運営を目指していく。

○1年間で取り組む具体策

- ・教室環境や集団療育・個別課題の検討に引き続き取り組み、支援力の向上を図る。
- ・保護者会を定期的で開催し、対応についての透明性を担保するとともに、保護者同士の情報交換・交流ができるようにする。
- ・より実践的な避難訓練を行い、災害時対応についてお便りにまとめ利用者に分かりやすい形で共有する。
- ・個別支援計画に沿った支援が確実に実践できるように、研修や事例検討をより充実させる。

スマートキッズ